

【文部科学省人権教育研究指定校事業報告】

人権問題を正しく理解し、主体的に解決に努める行動力のある生徒の育成

宇和島市立津島中学校

1 はじめに

本校の生徒は、学習活動や部活動に一生懸命取り組み、地域行事にも積極的に参加するなど、生き生きと生活を送っています。また、互いの良さを認め合い、仲の良い集団でありたいという気持ちがよくうかがえます。しかし、実際に行動することには消極的で、目の前の課題の解決に向けて進んで取り組もうとする生徒は少ないように感じます。そこで、生徒一人一人の良さを大切にしながら、体験型の学習活動や教科等横断的な学習を通して同和問題をはじめとする様々な人権問題に関心を持たせ、人権問題を正しく理解していこうとする意欲を引き出していきたいと考えました。さらに、人権問題を自分事として捉え、問題解決に向けて他者と学び合い、主体的に解決しようとする意識や行動力を高めていきたいと考え、本テーマを設定しました。

2 研究の実際

(1) 人権問題の解決を目指す教育課程の編成（全体計画の作成、年間指導計画の見直し）

「自分も他人も大切にする」という目標の下、各教科での人権・同和教育の視点を明確にし、学校生活全体を通して指導できるようにしました。また、各学年で「人権獲得の歴史」についての指導を1学期に行うことにし、事前に職員研修を行いました。これまで本校ではハンセン病問題をしっかりと取り上げて学習した経験がなかったため、今回ハンセン病問題の学習にも取り組むことにし、年間指導計画に1年生から3年生まで、系統的に配置しました。

(2) 人権学習の充実

ア 1年生の授業実践より

ハンセン病問題を、大きな課題の一つとして学習しました。6年前に宇和島市の中学生が長島愛生園の訪問をした記録を基にその体験と生徒作文を教材化し活用しました。

イ 2年生の授業実践より

ハンセン病患者等への差別や偏見と闘ってきた、松野町出身の政石蒙氏の短歌に触れる読み物資料を使って学習に取り組みました。

ウ 3年生の授業実践より

生徒が差別を自分事として捉えやすくすることをねらいとし、本校教員が取材した結婚差別の事例を基にした自作資料を用いた授業実践を行いました。

(3) 教職員研修の充実

地域の人権問題の学びとして、市の人権啓発課の方を講師に招いて教職員研修を行いました。この研修により、かつて市内で起こった「八幡事件」から見える人権課題を知り、一層人権学習に取り組む重要性を感じることができました。また、地域の人権活動家である山下友枝氏について、地域の福祉会館館長から資料をいただいて学習しました。山下さんは地域の水平社設立に尽力した人物であり、2年生の「水平社の設立」の学習でも扱っています。

(4) 特別活動における取組

生活人権委員会では、友達の善行を称える活動「今日のありがとう」を各学級で行いました。声に出して称賛されることにより「誰かに認められている」と自尊感情を高めることにつながりました。情報委員会では、「人権にかかわる絵本」のPOPカードを制作し、近隣の小学校へ掲示しました。ボランティア活動としては、地域の子ども食堂の手伝いや地域行事への参加を継続的に行うとともに、コロナ禍でなくなりつつあった夏祭りの「舞踊大行進」を生徒たちの声をきっかけに復活させまし



【人権に関わる新聞記事を読んで】



【つしま夏祭りへの参加】

た。みんなで故郷を大切にしていきたいという気持ちが「人とのつながり」を大切にしたいという心情の高まりへとつながりました。

(5) 保護者・地域との連携

毎年11月に人権参観日を行っています。また、授業参観後、地区別人権・同和教育懇談会開催事業として「人権のつどい in つしま」を行っており、昨年度は、国立ハンセン病資料館の学芸員を迎え、「ハンセン病問題を考える」と題して講演会を行いました。

【保護者の感想】

- ・ 本来、病人はいたわるものだが、感染するかもしれないという不安があるから差別につながるのかもしれない。やはり、「知ること」「理解すること」が偏見や差別をなくす第一歩だと思います。
- ・ 「誰かの問題」と思う限り、偏見や差別はなくせません。自分事としてとらえる想像力や行動力を養うことが大切です。人は弱い生き物なので一人では変えにくく、仲間づくりは強くなるための第一歩です。よい仲間とつながることが重要です。



【人権のつどい in つしま】

また、津島町福祉会館の活動として、地域の太鼓集団の指導の下、子ども会「泉風太鼓」の活動を行っています。人権学習も行っており、「ハンセン病元患者宿泊拒否事件」などについて話し合ったり、「語り部の話を聞く同和教育学習」を行ったりしました。

【語り部の方の話を聞いた生徒の感想】

- ・ 「勉強すれば、世の中の考えが変わる。昔の世の中も変わっていったし、今の世の中もこれから変わっていく」というMさんの言葉が、とても心に響きました。今があるのはMさんたち先人のおかげです。今の自分たちが生まれてこられたこと、当たり前毎日が過ごせていることに感謝して、これからも生きていこうと思いました。

(6) 現地研修会への参加

地域の連携機関と宇和島東高等学校津島分校、そして本校生徒、教職員が合同で県外研修に参加し、山口県の人権啓発センターでの座学やフィールドワークを行いました。また、今年度の自校の取組として、岡山県にある国立療養所長島愛生園を訪問し、ハンセン病問題について学習しました。実際に当事者の方の話を聞くことで、差別されることの苦しみや怒り、辛さなどが強く実感できました。



【県外研修（岡山県を訪ねて）】

(7) 系統的・継続的な小・中・高の連携

宇和島東高等学校津島分校の生徒による出前授業を本校で実施しました。津島分校生徒が作成した「SNSによるいじめSTOP動画」を基に、高校生が講師となって授業を行いました。

【生徒の感想】

- ・ いじめは加害者だけが悪いのではなく、それを見て何も言わない人も悪いということが分かったし、いじめがあった場合は、まず何か行動を起こすことが大切だと思いました。行動する勇気を持っておかなければいけないと感じました。

また、人権に関する絵本のPOPカードの掲示を校区の小学校6校にお願いしました。中学生は読み手（小学生）のことを考え、人権の視点に重点を置いて制作に努めました。

3 おわりに

研究を行うにあたり、近隣の中学校にも協力を求め、資料を集めて検討したり、実際にフィールドワークに参加したりして、教職員自身も大きな学びがありました。また、教材研究にも挑戦し、教材を扱う難しさとともにやりがいも感じました。机上での学習だけでなく、地域の研修の場に生徒や教職員が参加すること、特に、当事者の声や熱を感じてこそ得られるものがあります。また、生徒が参加したり体験したりする活動を計画・実践することで、人権課題を解決していく学習に意欲的に取り組み、人権意識を高めることにつながります。これからも生徒とともに人権尊重の意識を高めていく環境を作っていきたいと思います。